

楽しみながら 農業をしたい



Profile のだ・てつし

昭和56年6月6日生まれ。福岡でアパレル関係の仕事についていたものの、新規就農を決意。米農家で米・食味鑑定士の堤公博さん(袈裟尾)の指導のもと、南古閑の56アールの畑で米作りをスタート。趣味は漫画と遊園地の絶叫マシン。特技は職歴を生かした靴磨き。野間口区在住。37歳。

たわなに実ったヒノヒカリの稲穂の足元には、ゲンゴロウやオケラなど水辺の生物が泳ぎ回る。「農薬や化学肥料、防虫剤、除草剤は使っていません。きれいな水とともに育つお米は、自然の力が詰まっています」と胸を張る。

北九州で生まれ、福岡市で会社員に。親友の母の同級生だった菊池の米農家から話を聞くうち農法に共感し、一念発起して弟子入りを決意した。「農業の『の』の字も知らないズブの素人。冷静になつて考え直せと周りから止められました」。移住直前にはプレッシャーで胃に穴が開きそうになるほど苦しんだが、平成29年4月に就農。「必死に頑張ろう」と開き直ると、「肌に合っていたんでしょね。毎日が新しい発見の連続。自分の性格はオタク気質で研究熱心なので、楽しくて仕方がない」と米作りにのめり込んだ。田んぼの見回り活動は1日4回。計4時間弱をかけて行う丁寧な仕事ぶりです。田んぼに情熱を注いでいる。

昨年の菊池米の食味コンクールでは、就農1年目にして準優勝の快挙。「師匠の農法で作ったお米。おいしさを証明できて良かった」。優勝とは1点差。笑顔の裏に悔しさもにじませる。

「菊池に骨を埋めるつもりで来た。地域で一目置いてもらえるように頑張りたい」。熊本市のマルシェで販売しているほか、加工品の開発にも取り組む。「おいしいお米を作りたい。面白い商品を実現したい。あとは…お嫁さんを見つけないと!」

「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

問い合わせ先

市長公室広報交流係

☎ 0968 (25) 7252

菊池人
63

米農家

野田 哲詩さん



1 会社員時代は百貨店で靴磨きを実演していたことも。愛用の道具でササっと手際よく磨き上げる 2 きくち観光物産館の一角にある販売スペース。パッケージにもこだわっている 3 師匠の堤公博さん(左)と。「師匠の技術や行動力、発想は勉強になります」